

人生 100 年時代を意識した J リーガ一年齢の基礎分析

05001148 筑波大学 *中田 浩二 NAKATA Koji
非会員 立正大学 櫻井 一宏 SAKURAI Katsuhiko
01009480 筑波大学 大澤 義明 OHSAWA Yoshiaki

1. はじめに

長寿社会へ突入し、ライフプランの再考を問う人生 100 年時代を迎えようとしている [1][2]。教育・仕事・引退というスリー・ステージからマルチ・ステージへの移行が進み、我が国でも年功序列や正社員優遇制度などの雇用慣行が成り立たなくなるであろう。その結果、学び直しやレカレント教育という言葉も社会に浸透してきた [2]。

J リーグが 1993 年に開幕し、四半世紀が過ぎ、これまで 5,000 名以上のプロ選手を輩出してきた。J リーガの選手寿命は短く、若い時期にサッカーに専念してきたこともあり、セカンドキャリア形成という大きな課題がある [3]。本稿では、J リーガの活躍時期や引退時期を数値で抑え、人生 100 年のマルチ・ステージ時代での J リーガのセカンドキャリアについて論じる。なお、サッカー戦術に関してデータ分析が進んでいる [4] が、本稿では選手のキャリアに絞って論を展開する。

2. J リーグクラブの選手登録

図 1 に 2018 年選手名鑑データ [5] を用いて、2018 年春という時間断面における J リーグクラブへの入団・退団さらには J リーグ全体への流出・流入状況を模式図として示した。図の左側に示す、J リーグ流入におけるパーセント表記は、2018 年 2 月 7 日時点の選手登録数 1,585 人を分母としている。一方、図の右側は 2017 年の J リーガ選手の移転先(流出先)を主眼とし、2017 年時点の選手登録数 1,600 人を分母とするパーセント表記になる。

図 1 から、第一に、J2 が若干高いが平均年齢が 26 歳と若いことが読み取れる。第二に、J リーグ内でのクラブ間移籍も含めると、およそ 3 分の 1 の選手がクラブ所属を変更しており、流動性が高くなる。第三に、J リーグ流入では大学の 83 人が最も多く、高校生やユースの合計 64 名よりも多い。第四に、流出では未定が 102 人となり、これには実質的にはサッカー選手を引退する状況なども含まれているため、引退の 49 人と

あわせると、年間約 10 %の選手が引退し、再チャレンジや転職を余儀なくされていると考えられる。

3. J リーグ流出・流入年齢分布

図 2 は J リーグへの流出選手、J リーグからの流入選手の年齢分布である。ただし海外を除いた。図 2 から、第一に、流入では、大学からの 22 歳と高校からの 18 歳が突出していることが確認できる。第二に、流出では分布範囲が大きく、20 代前半、20 代後半、30 代前半と三段階のピークが読み取れる。従って、人生 100 年時代では、残りの三分の二から四分の三のキャリアが重要となる。

4. 選手活動年齢分布

選手の活躍ピーク年代を数値で抑えるために、選手登録の平均年齢に加え、選手のパフォーマンスとして、出場時間、ゴールを選び、選手年齢の重み付け平均を算出した。2013 年から 2017 年まで値を 2014 年～2018 年選手名鑑データ [5] を用い計算した。鹿島アントラーズおよび浦和レッズの結果を、それぞれ図 3、図 4 に示す。

両図から、鹿島は浦和に比べて、ゴール決定選手のみならず全体の平均年齢が低く、出場選手とゴール決定選手との年齢差が大きい。対照的に、浦和では、平均年齢はいずれも高めで上昇しておりパフォーマンスとの年齢差異も小さい。このように、選手の起用、育成に関してクラブごとに方針が異なる。クラブのみならずリーグなど組織としてのキャリア形成支援が必要不可欠である。

5. おわりに

人生 100 年社会を迎え、一方で情報技術の革新とグローバル化の深化により現代社会は劇的に変化し多様な人材が求められている。肉体的にも精神的にも厳しい経験を積んできてきた J リーガの潜在力は高い。引退後に親身なキャリア支援体制があれば、若い時期にサッカーに集中でき、長期的に見て日本サッカー界の戦力アップにもなる。

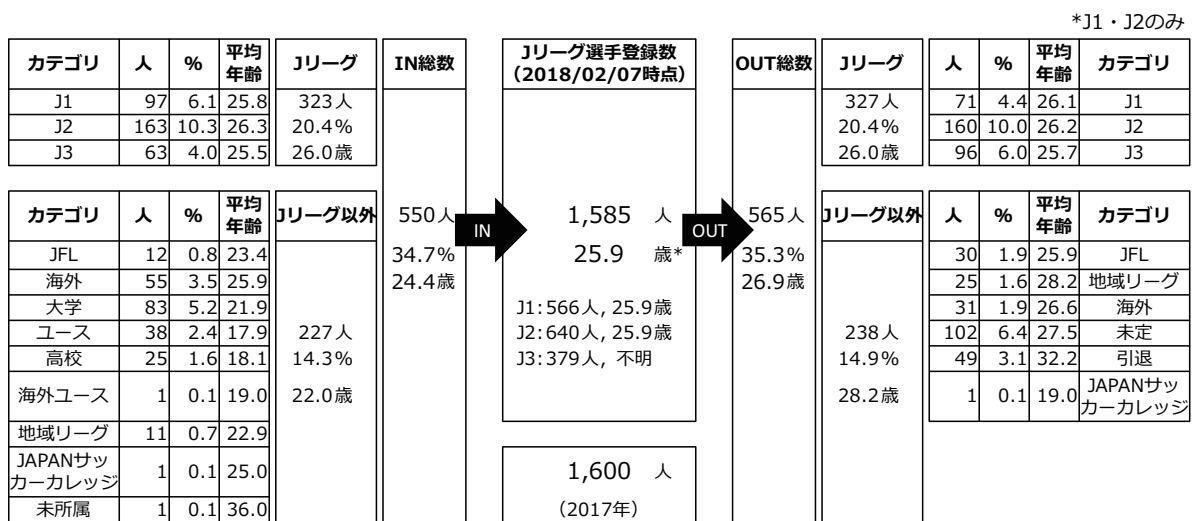


図 1: 2018年Jリーグへの出入

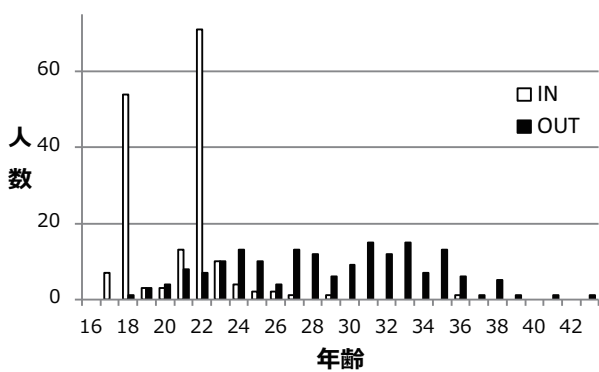


図 2: 2018年Jリーグ流入・流出時の年齢分布

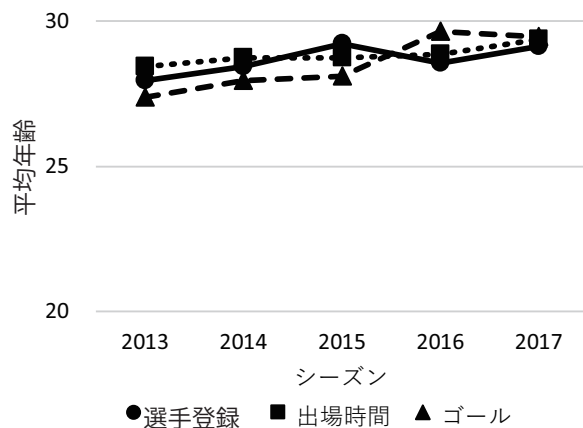


図 4: 浦和レッズのパフォーマンス平均年齢

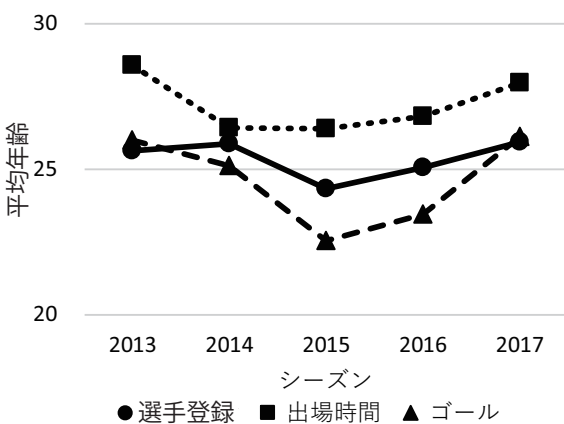


図 3: 鹿島アントラーズのパフォーマンス平均年齢

謝辞

鹿島アントラーズと筑波大学とは、2013年8月にアカデミック・アライアンスを締結した。本研究はその一環で実施している。

参考文献

- [1] リンダ・グラットン, アンドリュー・スコット (2016): ライフ・シフト. 東洋経済.
- [2] 内閣府 (2018): 平成 30 年度版経済財政白書.
- [3] 高橋潔, 重野弘三郎 (2010): Jリーグにおけるキャリアの転機—キャリアサポートの理論と実際, 日本労働研究雑誌, 603, pp.16-26.
- [4] クリス・アンダーゼン, デイビッド・サリー (2014): サッカー データ革命. 辰巳出版.
- [5] サッカーダイジェスト (2014,2015,2016,2017,2018): J1&J2&J3 選手名鑑. 日本スポーツ企画出版社.